

白山麓方言の授与動詞体系

令和5年度第2回「危機言語の保存と日琉諸語のプロソディー」合同研究発表会

2024年3月17日

松倉昂平（金沢大学）

本発表の目的

① 大野市上打波方言の授与動詞体系の記述

- 3種の授与動詞（ヤル/クレル/イクス）の使い分け

マゴネ　ミヤゲオ　{ヤッタ/クレタ/イクイタ}

「（私は）孫に土産をあげた」

② 周辺方言との比較対照

- 富山県五箇山方言との比較対照

研究の背景

2022年 福井県大野市でアクセント調査を始める

2023年 国立国語研究所で基礎語彙調査に携わる

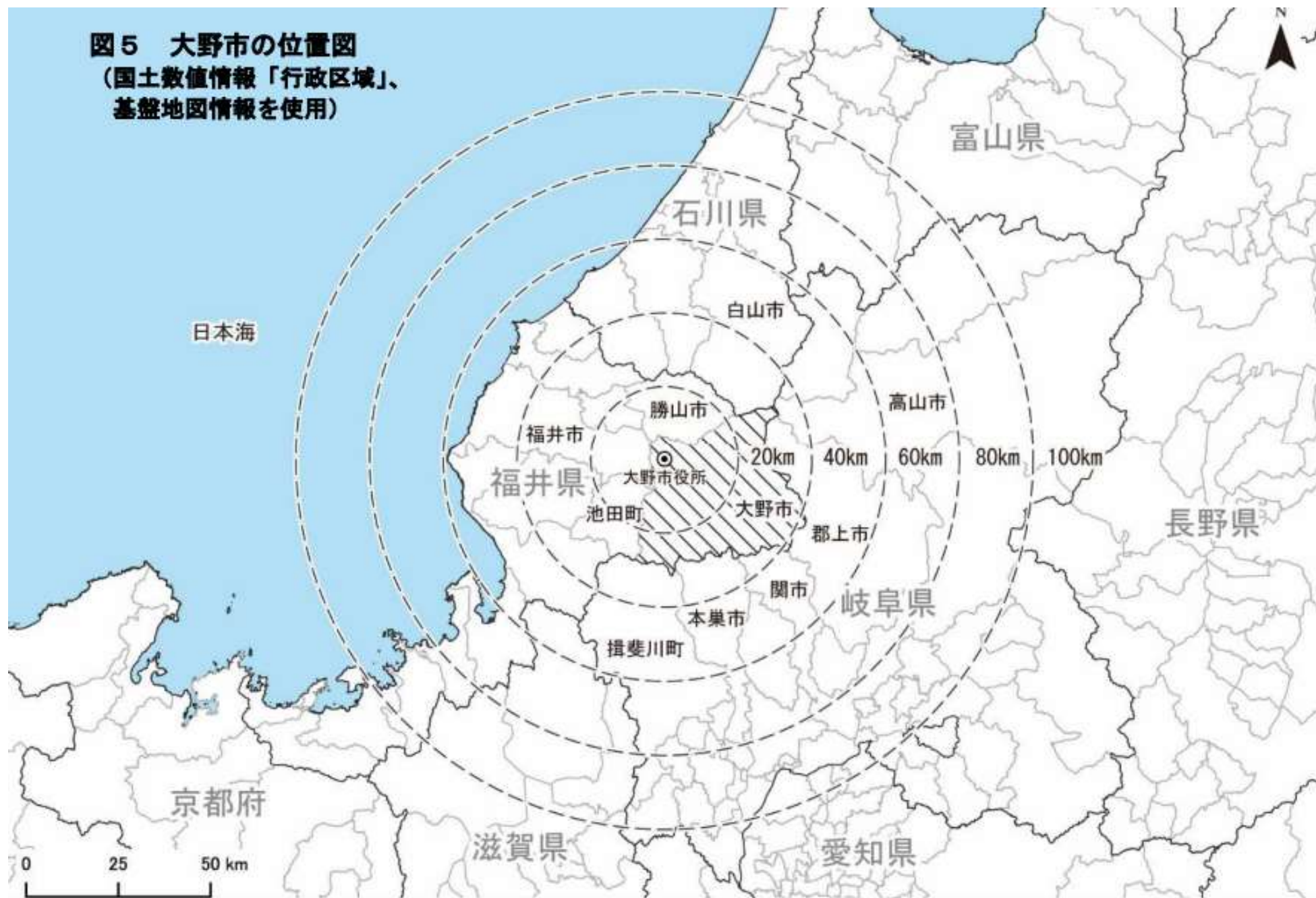
福井県大野市で基礎語彙調査を開始

(現在2200語収録、公開済み)

- 基礎語彙調査は言語調査の最初の一步、**文法研究に向けたパイロット調査にもなる**

利点：語彙・例文を収集する中で興味深い文法現象が見つかる

1. 前提知識



出典：福井県大野市「大野市文化財保存活用地域計画」 p.8

はじめに：対象地域

- 大野市北東部、白山の麓にある上打波地区
- 大野市街から東へ20km
- 昭和40年代までに全住民離村、大野市街へ移住
- 明治45(1912)年の人口は1260人（『福井県大野郡誌』）

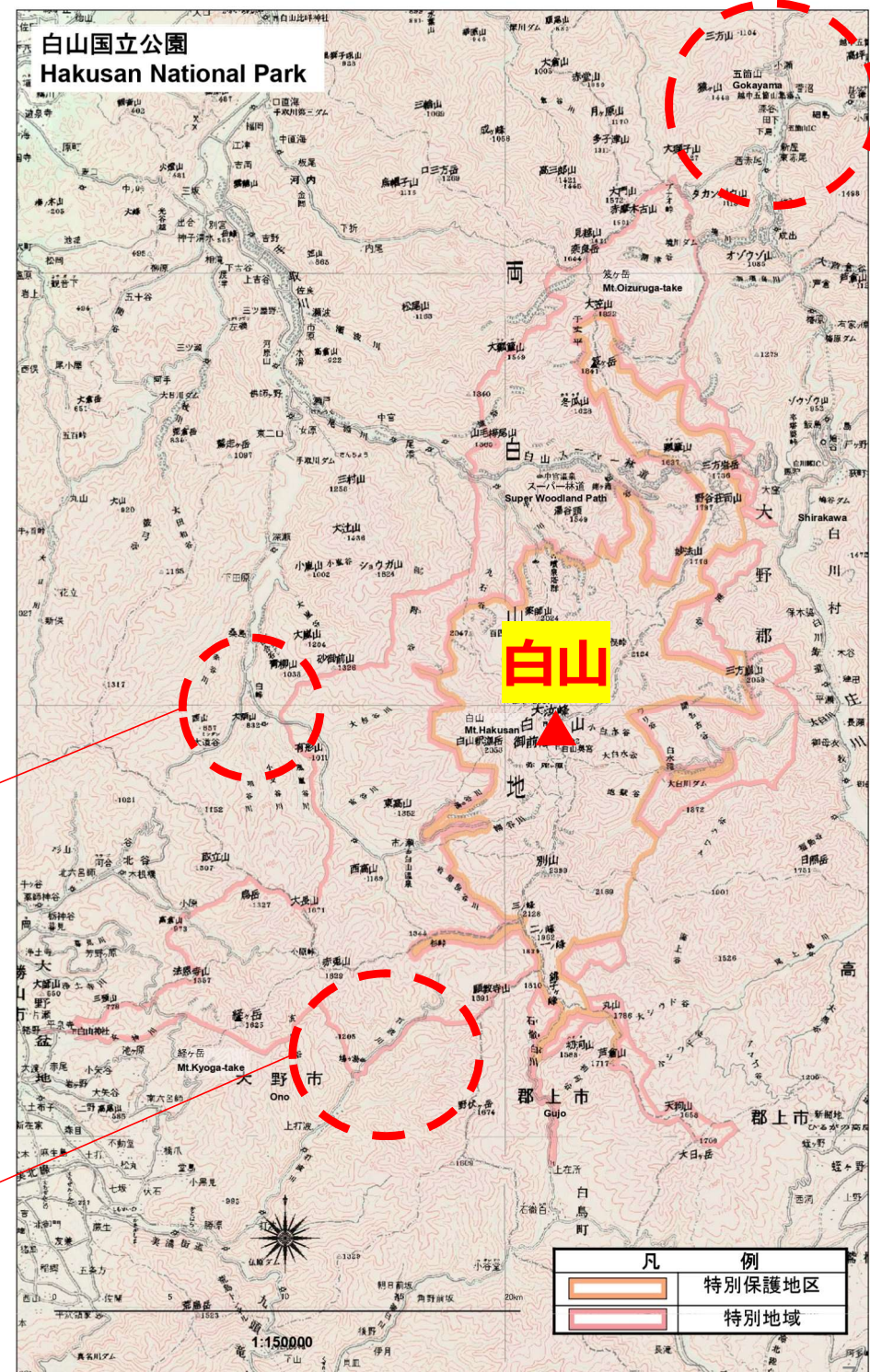


はじめに：対象地域

- 本発表では、同じく白山麓にある石川県白峰方言、富山県五箇山方言との共通点を踏まえて白山周辺の山村方言を「**白山麓方言**」と呼んでいる

白峰

上打波



画像出典：環境省 白山国立公園 概況図

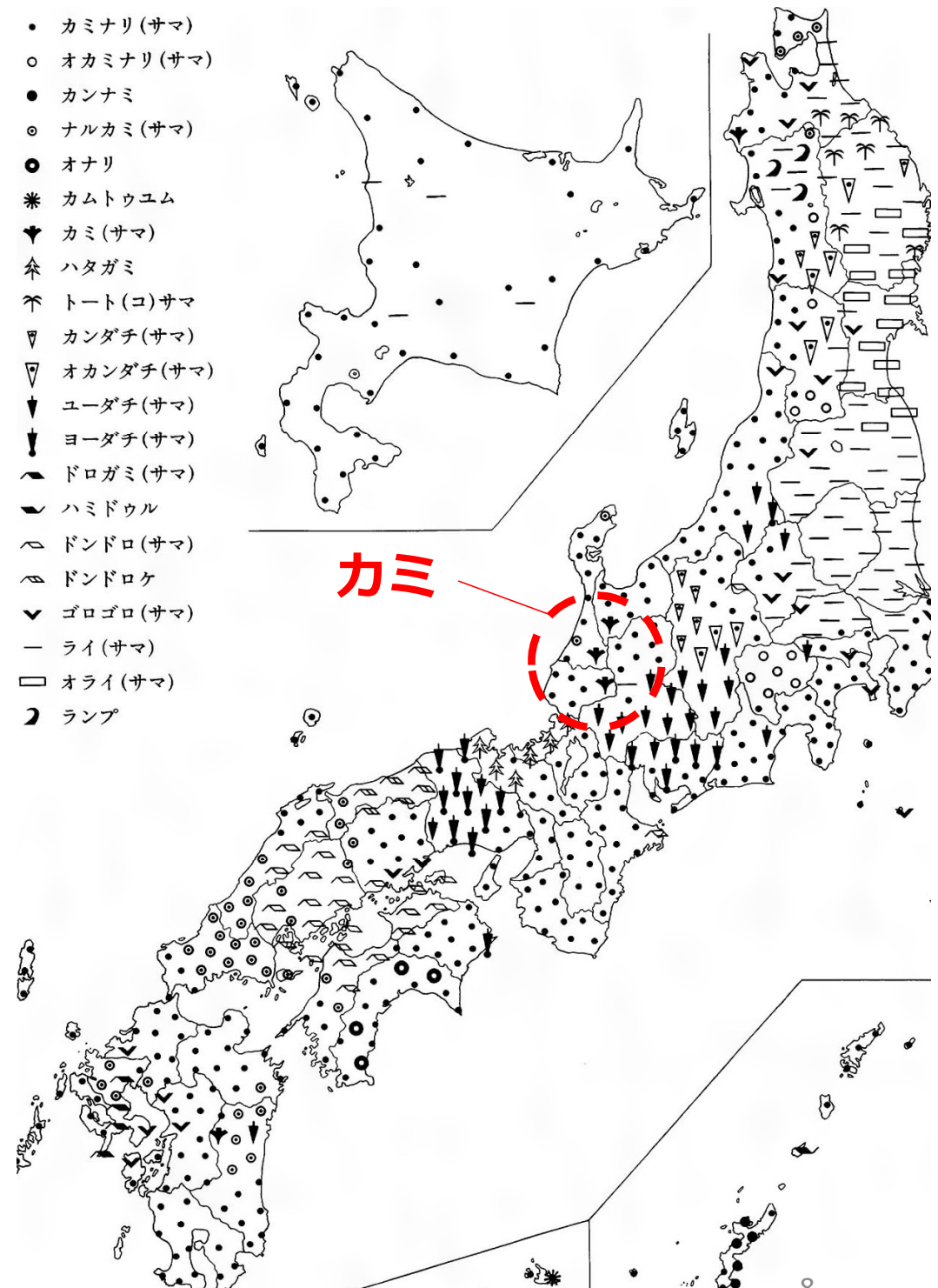
<https://www.env.go.jp/park/hakusan/intro/files/area.pdf>

この地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の数値地図200000(地図画像)及び数値地図メッシュ(標高)を使用したものである。(承認番号 平18総発、第565号) 使用地図は平成18年3月1日版 数値地図200000(地図画像)です。図表毎に更新期日がありますのでご了承ください。

白山麓方言の共有特徴

- カミ 〈雷〉
- =ガ 〈所有格〉
- 遠心的授与を表すクレル

- カミナリ(サマ)
- オカミナリ(サマ)
- カンナミ
- ◎ ナルカミ(サマ)
- オナリ
- ✱ カムトウユム
- ▼ カミ(サマ)
- 余 ハタガミ
- 丌 トート(コ)サマ
- ▽ カンダチ(サマ)
- ▽ オカンダチ(サマ)
- ▼ ユーダチ(サマ)
- ↓ ヨーダチ(サマ)
- へ ドロガミ(サマ)
- ハミドウル
- へ ドンドロ(サマ)
- へ ドンドロケ
- ▼ ゴロゴロ(サマ)
- ライ(サマ)
- オライ(サマ)
- ♪ ランプ



はじめに：授与動詞とは

- 物のやりとりを表す基本的な動詞（授受動詞）のうち、「やる」や「くれる」など与え手が主格に立つもの（日高2007: 3)
- 授受動詞は次のような特徴を共有する語彙体系をなす
(※必ずしも全ての特徴にあてはまるわけではない)
 - (a) 単なる〈物の受け渡し〉ではなく〈所有権の移動〉〈恩恵の授与〉が含意される
 - (b) 授与の方向性（人称/視点）に制限がある
 - (c) 補助動詞用法がある

以上のような特徴で、「与える」「渡す」などとは区別される

はじめに：授与動詞とは

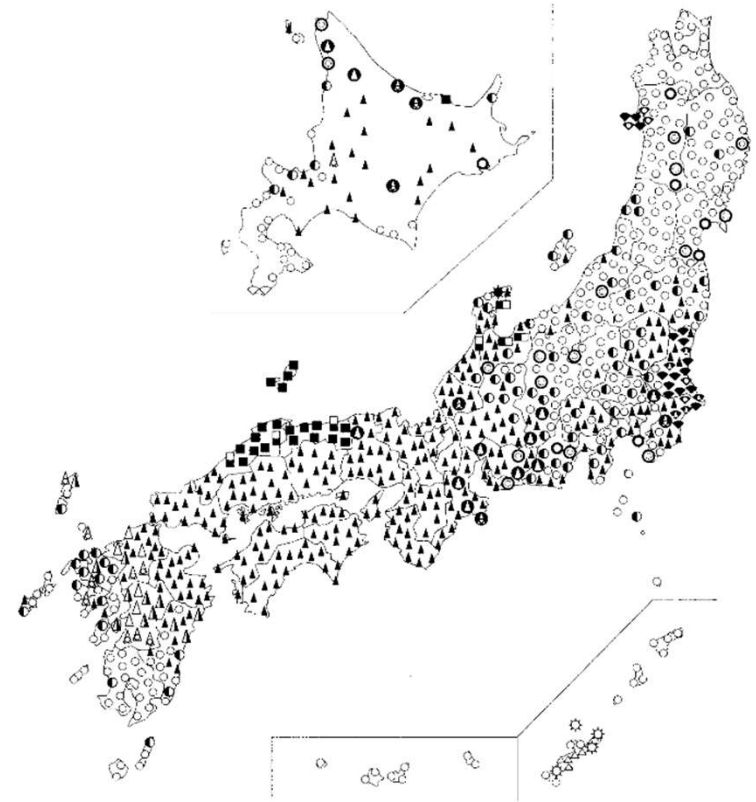
- **遠心的授与**： 話し手から他者への授与 (日高2007: 5)
- **求心的授与**： 他者から話し手への授与 (日高2007: 5)
- 共通語の「やる」は遠心性動詞、「くれる」は求心性動詞
 - (1) 私が 太郎に 本を {やった/*くれた}
 - (2) 太郎が 私に 本を {*やった/くれた}
- なお「よこす」も求心性動詞
 - (3) 太郎が 私に 本を よこした
 - *私が 太郎に 本を よこした

はじめに：授与動詞の地方差

- 授与動詞に遠心/求心の対立がない地域も広い

	遠心	求心
東日本	クレル	
中部・関東	ヤル・クレル	クレル
西日本	ヤル	クレル
九州中部	ヤル	
九州南部	クレル	

- 中部・関東地方は東日本型と西日本型の接触地帯にあたる



「やる」(遠心性授与動詞) / 「くれる」(求心性授与動詞)

- | | |
|--------------------|--------------|
| ▲ ヤル/クレル | ■ ヤル/ヨコス |
| ○ クレル/クレル | □ ヤル/クレル・ヨコス |
| ● ヤル・クレル/クレル | ▣ ヤル・ヨコス/クレル |
| △ ヤル/ヤル | ◆ ダス/クレル |
| ▲ ヤル/ヤル・クレル | ◇ ヤル・ダス/クレル |
| △ ヤル・クレル/ヤル・クレル | ◇ クレル・ダス/クレル |
| ◎ クレル・クレテヤル/クレル | ◇ ダス/ダス |
| ○ クレテヤル/クレル | ★ ヤル・トラス/クレル |
| ● ヤル・クレテヤル/クレル | ☆ トラス/トラス |
| ● ヤル・クレル・クレテヤル/クレル | △ エラス/エラス |

出典： 日高 (2006: 197)

2. 先行研究

先行研究

- 授与動詞の全国的な方言差の解明（『日本言語地図』第73, 74図、日高1997, 2007など）
- 北陸方言の授与動詞体系の記述

（詳細）

遠心/求心

石川県内浦町方言（日高1997, 2007）

トラシル・クレル/クレル

富山県五箇山方言（日高1994, 1997など）

岐阜県白川郷方言（日高1997, 2007）

クレル/クレル

（簡略）

石川県白峰方言（新田2005など）

ヤル・クレル/クレル・イクス

富山県富山市方言（小西2014）

ヤル/クレル

富山県五箇山方言

- クレルが遠心的授与も表す

(4) オラ マゴニ コノホンオ **クレタ**

私が孫にこの本をやった

(日高2007: 189)

- ヤルは基本的に動植物に対して用いられる。受け手が人間でなければクレルは使えない（可愛がっている動植物であればクレルもあり得る）

(5) イヌニ エサオ {**ヤル**/***クレル**}

犬に餌をやる

(日高2007: 193)

富山県五箇山方言

- イクス（「よこす」に対応）が遠心的授与も表す

(6) オラワ タローニ テガミオ **イクイタ**

*私は太郎に手紙をよこした

（日高2007: 190）

- イクスには本動詞の意味から離れた補助動詞用法がある
- 「相手にそれをする能力がないために代わりにやってやる」というニュアンス

(7) ナニ モチャモチャト シトル オラ シテ**イクス**ワ

何、モタモタとしている。私がしてやるよ

（日高2007: 203）

富山県五箇山方言

- 受け手の心理的負担が大きい(受け手に強い恩恵意識を抱かせてしまう)文脈では遠心的なクレルが尊大なニュアンスを帯びて不適格になる
 - ∴ クレルは受け手が与え手に対して恩恵意識を持つことを含意する
- 自分の行為が相手の利益になることを明示する遠心的・補助動詞用法の～テクレルは尊大な表現となりかなり目下の相手にしか使えない

(8) ワリニ ホンオ ヨンデクリョツカ

おまえに本を読んでやろうか

(日高2007: 200)

石川県内浦方言

- 遠心的用法のクレルは、聞き手への授与を表明する文でのみ使われ、第三者への授与を叙述する場合は使えない

(9) ワレニ コノホン クリヨカ

おまえにこの本をやろうか (日高2007: 238)

(10) *キンニヨ一 マゴノタンジョービヤッタガデ ホン クレタ

昨日、孫の誕生日だったので、本をやった (同上)

石川県白峰方言

- クレルが遠心的授与も表す

(9) ギラは ツレシユーに ミヤーゲを **クレタ**や
私は友達に土産をやった (新田哲夫氏 p.c.)

- イクスが遠心的授与を表せない

(10) *ギラは ツレシユーに ミヤーゲを **イクシタ**や
*私は友達に土産をよこした (新田哲夫氏 p.c.)

先行研究の要点

- 北陸の一部地域（奥能登と白山麓）ではクレルが遠心的授与も表す（クレル/クレル体系）
- ヤルは受け手の人格（恩恵意識）を想定しない（主に動植物が受け手である）場合に用いる
- 五箇山ではイクスは遠心的授与も表す
- クレルの遠心的用法に関する通方言的傾向（日高1997）：
 - ① **補助動詞用法**（～テクレル）では遠心的用法を失いやすい
 - ② **発話現場に依存する提供文**（「お前にクレル」）では遠心的用法が残存しやすく叙述文（「○○にクレタ」）では遠心的用法を失いやすい

先行研究を踏まえた注目ポイント

- クレル、イクスに遠心的用法があるか
- ヤルの用法（受け手は動植物に限られるか）
- 日高（1997）の通方言的傾向があてはまるか：
 - クレルは補助動詞用法（～テクレル）で遠心的用法を失いやすいか
 - 提供文（「お前にクレル」）では遠心的用法が残存しやすく叙述文（「○○にクレタ」）では遠心的用法を失いやすいか

3 . 3 種の授与動詞

@大野市上打波

調査方法

- 方法： 共通語文の翻訳、調査者が作成した方言文の容認度判断
- 期間： ①語彙調査を行う中で断片的な情報が集まる
(2022年7月～2023年9月)
②授受動詞に特化したインタビューを実施
(2023年12月)
- 協力者： 1939年生男性 (1972年まで上打波に居住)

データ（3種の授与動詞）

(11) ウラ マゴネ ミヤゲオ {ヤッタ/クレタ/イクイタ}
私は孫に土産をあげた

(12) マゴガ ウラネ ミヤゲオ {*ヤッタ/クレタ/イクイタ}
孫が私に土産をくれた

- 「ヤル」は遠心性動詞、「クレル」「イクス」は中立

データ（ヤルの意味）

- ヤルは最も一般的な遠心的授与動詞。動植物に限らず、特定の人間を受け手にできる。むしろクレルやイクスの方が使用範囲が狭い（後述）

(11') ウラ マゴネ ミヤゲオ ヤッタ
私は孫に土産をあげた

【比較】五箇山方言のヤルは受け手を人格的存在と想定せず、特定の人に対し用いると軽蔑的意味を含意

(12) ソンナモン アノコニ {#ヤレヨ/クレヨヨ}
そんな物、あの子にやれよ (日高2007: 193)

データ（ヤルの意味）

- 動植物に対する授与は普通ヤルで表すが、動植物がそれを必要としている(or 欲しがっている)場合、クレルかイクスを使える

(13) ハナネ ミズ {ヤル/#クレル/#イクス}

(庭へ水を撒くついでに) 花に水をあげる

(14) ハナネ ミズ {ヤル/クレル/イクス}

(花がしおれているから) 花に水をあげる

【比較】五箇山方言でも動植物への授与はヤル。基本的にクレルは使えないが、可愛がっている動植物にはクレルを使うこともある

データ（遠心的クレル・イクスの意味）

(11') マゴネ ミヤゲオ {ヤッタ/クレタ/イクイタ}

孫に土産をあげた

(15) オツツァネ ミヤゲオ {ヤッタ/#クレタ/#イクイタ}

父親に土産をあげた

- クレルは「慈悲の心」から行う授与を表し、**受け手に恩恵意識を強く意識させる**（「恩に着せる」ニュアンスがある）ため、**目上の人には使いにくい**
- イクスも受け手に「何らかの事情があって」行う行為を表し、やはり恩を売るニュアンスがある

データ（遠心的イクスの意味）

(16) アイツァ モノ ホシガッタモンヤデ **イクイタ**ワイ
あいつが物を欲しがったものだからあげたよ

(17) オツツァネ ケイトノ ボーシ コーテ**イクソ**
(寒いと言うから) 父親に毛糸の帽子を買ってあげよう

- イクスは受け手に「何らかの事情があって」行う行為を表す
- 遠心的行為を表す補助動詞用法もある(17)

【比較】五箇山方言の～テイクスは「相手にそれをする能力がないために、代わりにやってやる」（日高2007: 203）という文脈

データ（遠心的クレルの使用条件）

- 下記の3つのパラメーター別に使用可否を整理

受け手との上下関係（孫/お前/父親）

提供文/叙述文（あげよう/あげた）

本動詞/補助動詞

- 受け手についてはすでに例文既出：

(11') マゴネ ミヤゲオ {ヤッタ/クレタ/イクイタ}

孫に土産をあげた

(15) オツツァネ ミヤゲオ {ヤッタ/#クレタ/#イクイタ}

父親に土産をあげた

データ（遠心的クレルの使用条件）

- 提供文/叙述文について：

(18) ワエネミヤゲオ {ヤロ/クレヨ/イクソ}

お前に土産をあげよう

(19) ワエネミヤゲオ {ヤッタ/?クレタ/イクイタ}

お前に土産をあげた

- 聞き手に対する授与を表す叙述文(19)ではクレルがやや言いにくい

データ（遠心的クレルの使用条件）

- 提供文/叙述文について：

(20) ワエネミヤゲオ コーテ {ヤロ/クレヨ/イクソ}

お前に土産を買ってあげよう

(21) ワエネ ミヤゲオ コーテ {ヤッタ/*クレタ/イクイタ}

お前に土産を買ってあげた

- 補助動詞用法になると、叙述文(21)ではクレルが明確に不可
- 叙述文において～テクレルは遠心的用法を持たない

データ（遠心的クレルの使用条件）

- **本動詞/補助動詞**について：

(11') マゴネ ミヤゲオ {ヤッタ/**クレタ**/イクイタ}

孫に土産を**あげた**

(19) ワエネ ミヤゲオ {ヤッタ/?**クレタ**/イクイタ}

お前に土産を**あげた**

(22) マゴネ ミヤゲオ コーテ {ヤッタ/***クレタ**/イクイタ}

孫に土産を**買ってあげた**

(21) ワエネ ミヤゲオ コーテ {ヤッタ/***クレタ**/イクイタ}

お前に土産を**買ってあげた**

まとめ（遠心的クレルの使用条件）

クレル	提供文		叙述文	
	本動詞 「あげよう」	補助動詞 「～てあげよう」	本動詞 「あげた」	補助動詞 「～てあげた」
孫	○	○	○	×
お前	○	○	△	×
父親	△	×	×	×

- 日高 (1997) の示す通方言的傾向と一致
 - 本動詞で遠心的用法を保持、補助動詞で遠心的用法を失う
 - 提供文で遠心的用法を保持、叙述文では遠心的用法を失う
- 恩に着せるニュアンスがあり目上の人には使いにくい

まとめ（遠心的イクスの使用条件）

イクス	提供文		叙述文	
	本動詞 「あげよう」	補助動詞 「～てあげよう」	本動詞 「あげた」	補助動詞 「～てあげた」
孫	○	○	○	○
お前	○	○	○	○
父親	#	#	#	#

- イクスにはクレルと異なりモダリティ的・構文的制約がない
- ただし相手の要求に応じて恩を売るニュアンスがあり、目上の相手に対しては使いにくい

まとめ (ヤル/クレルの分布)

	遠心的授与				求心的授与	
	提供文		叙述文		叙述文	
	本動詞 「あげよう」	補助動詞 「～てあげよう」	本動詞 「あげた」	補助動詞 「～てあげた」	本動詞 「くれた」	補助動詞 「～てくれた」
孫	ヤ/ク	ヤ/ク	ヤ/ク	ヤ	ク	ク
お前	ヤ/ク	ヤ/ク	ヤ/?ク	ヤ	ク	ク
父親	ヤ/?ク	ヤ	ヤ	ヤ	ク	ク

- クレル/クレル体系からヤル/クレル体系への移行体系

五箇山方言との対照

〈共通点〉

- 動植物への授与は基本的にヤル
- クレルに遠心的用法あり。受け手が恩恵意識を持つことを含意
- クレルの補助動詞用法は遠心的な意味では使いにくい
- イクスに遠心的用法あり。また「相手の能力や要求を踏まえ代わりにやってやる」意味の補助動詞用法あり

〈相違点〉

- ヤルが最も一般的な遠心的授与動詞として確立
→ 西日本のヤル/クレル体系に一步近付いている

4. 求心的授与動詞 の待遇語

データ（求心的クレルの軽卑語）

(23) マゴガ ウラネ ミヤゲオ {クレタ/**カシタ**}

孫が私に土産をくれた

(24) マゴガ ウラネ ミヤゲオ コーテ {クレタ/**カシタ**}

孫が私に土産を買ってくれた

(25) カワリニ ヨンデ {クレ/**カセ**}

(弟に) 代わりに読んでくれ

- カスは「無理にやらせる」ニュアンスがあり(侮辱語というわけではない)、目下の相手にしか使えない
- (24)(25)のように補助動詞用法あり

データ（求心的クレルの尊敬語）

- (26) オツツァガ ウラネ ミヤゲオ {クレタ/タモッタ/オグレタ}
父親が私に土産をくれた/くださった
- (27) ボンサマガ ウラネ ミヤゲオ {#クレタ/タモッタ/オグレタ}
お坊さんが私に土産をくださった
- (28) カワリニ ヨンデ {#クレ/タモレ/オグレ}
(父親に) 代わりに読んでください
- オグレルの方が敬意が高い？（確認不十分）

5. さらになる課題 遠心的授与動詞「カス」

データ（遠心的カスの使用条件）

(29) マゴネ ミヤゲオ {ヤッタ/クレタ/*カシタ}

孫に土産をあげた

(30) マゴネ ミヤゲオ コーテ {ヤッタ/*クレタ/カシタ}

孫に土産を買ってあげた

- カスは補助動詞になったとき遠心的意味を表し得る
- カスは「貸す」であろう。近世後期以降「～て貸す」の用法が見られる

(31) ナンジャいふてかし

（洒落本『十界和尚話』5（1798年））

まとめ（遠心的カスの使用条件）

カス	提供文		叙述文	
	本動詞 「やろう」	補助動詞 「～てやろう」	本動詞 「やった」	補助動詞 「～てやった」
孫	×	○	×	○
お前	×	○	×	○
父親	×	#	×	#

まとめ (ヤル/クレル/カスの分布)

	遠心的授与				求心的授与	
	提供文		叙述文		叙述文	
	本動詞 「あげよう」	補助動詞 「～てあげよう」	本動詞 「あげた」	補助動詞 「～てあげた」	本動詞 「くれた」	補助動詞 「～てくれた」
孫	ヤ/ク	ヤ/ク/カ	ヤ/ク	ヤ/カ	ク/カ	ク/カ
お前	ヤ/ク	ヤ/ク/カ	ヤ/?ク	ヤ/カ	ク/カ	ク/カ
父親	ヤ/?ク	ヤ	ヤ	ヤ	ク	ク

- 授与動詞体系(の変遷)を考える上では「カス」の意味・役割も考慮に入れる必要があるか

参照文献

小西いずみ (2014) 『富山県方言の文法』 ひつじ書房

新田哲夫 (2005) 『石川県白峰地方の方言特徴と方言テキストの語法』 金沢大学文学部

日高水穂 (1994) 「越中五箇山方言における授与動詞の体系について：視点性成立過程への一考察」 『国語学』 176, 125-114.

———— (1997) 「授与動詞の体系変化の地域差：東日本方言の対照から」 『国語学』 190, 119-108.

———— (2006) 「第5章 文法化」 佐々木冠ほか 『シリーズ方言学2 方言の文法』 岩波書店, 181-216.

———— (2007) 『授与動詞の対照方言学的研究』 ひつじ書房

謝辞

長期間にわたり調査にご協力頂いた幅口隆一様に厚く御礼申し上げます。

この発表に係る調査はJSPS科研費（19J00755, 19H00530）および国立国語研究所共同研究プロジェクト「消滅危機言語の保存研究」の支援を受けています。